

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570102550
法人名	医療法人 雅会
事業所名	グループホームかざぐるま
所在地	宮崎県宮崎市大字島之内7310-1 (電話) (0985)-30-2800

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年10月26日

【情報提供票より】(19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	9 人
常勤	9人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.475人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	早稲田神経内科・宮崎善仁会・市民の森病院・宮崎北歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、商店や住宅街の一面に位置し、同法人の医院に隣接している。利用者の健康管理や夜間、そして緊急時等の協力体制が整っている。管理者をはじめ、全職員は利用者一人ひとりが有する力を発揮しながら、地域で安心した暮らしが継続できるよう、細かな対応の支援を目標に熱心に取り組んでいる。利用者の表情は穏やかで、職員と朗らかに笑っている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘のあった「地域と密着した関係」については、ホーム独自の理念をわかりやすくし、理解できるように話し合い、検討している。契約書については、改善に向け取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、今後の課題として一つでも良いので出来る事を前向きにとらえ、ケアの質の向上に繋げるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、まだ開催されていない。地域の方々や地域包括支援センター関係者など相談をしながら、開催できるよう取り組んでほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、訪問時や電話で、意見や苦情がないか声をかけ、何時でも何でも言える雰囲気づくりを心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年1回行われる母体施設の夏祭りで、地域の人々との交流がある。買い物や散歩中に挨拶を交わしている。今後、さらに近くの小学校へ利用者の作品を届けたり、ホームのレクリエーションの案内やお便り等を老人会、自治会へ配布して地域の交流を図って行く予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念に沿うように管理者と職員とで話しながらすすめている。	○	利用者が地域の中で暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスに向け取り組んでほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回以上の全体のミーティングを実施し、理念に合ったケアができるよう取り組んでいる。	○	理念を掘り下げて職員全体で話し合い、地域密着型サービスの具体的なケアについての取り組みをさらに深めてほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年1回の母体施設の夏祭りへの参加やデイケアとの交流を行っている。		レクリエーション等を行う際に、地域住民にも声をかけるような取り組みを行ってほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に評価の意義と理解を働きかけ、全職員で評価を活かした改善に取り組んでいる。さらに活用しよりよいサービスの質の向上の機会として取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されていない。	○	地域密着型サービスとして、地域の方々や地域包括支援センター関係者など相談をしながら、開催できるよう取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会等には参加している。	○	市町村担当者や包括支援センターの職員等との連携をつくってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に声かけ、利用者の状況を話し合い、あらゆる機会に利用者の状況を伝えている。金銭についても、領収と明細を毎月渡している。月1回のレクリエーションへの参加案内やお便り等している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に利用者の担当者ができるだけ多くの情報の収集に努め、申し送りノートやミーティングを活用して全職員と共有し、望ましいサービスへと反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3か月毎に利用者の担当者が交代するが、前任者が支援してダメージを防ぐ取り組みをしている。引継ぎ期間がスムーズに移行できるよう管理者は細やかな配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶ事を推進し、研修等へ参加する機会がある。連絡ノートに研修申し込みを記名し、希望等調整している。復命書で全職員のレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の機会を利用して個人的な交流が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が利用者宅を訪問したり、利用者が来所してお茶をしながら団欒の時間を過ごしている。今後、試しの「お泊り」できるシステムを作りたい意向である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の安心と納得のいく支援を大切にしている。人生の先輩として尊敬し、入居者に日常学ぶ事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、職員が日常的に、一人ひとりの暮らし方などの把握に努め相談しながら、より良いケアの検討をしている。時間をかけて本人と対話し、何を求めているかを理解できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自立度、生活史、心身の状態等の情報のチェック項目を組み込んだ「基本情報等や暮らしの情報のシート」を基に記録し、利用者、家族、担当者や職員と一緒に話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	小さなことでも変化があった場合には、家族に連絡し、より良いケアについて話し合っている。利用者の状態の変化に即して、その都度の見直しを行い、変化のない場合でも必ず3か月毎に、利用者、家族、担当者、職員で見直している。		今後さらに状態の変化のない場合にも1か月に1回の見直しをして、サービスの向上を図ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて衣替え時期の買い物や、住居へ必要なものを取りに帰るなどの支援も柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との外出を兼ねて家族に支援をお願いしているが、希望に応じて職員の通院支援や往診依頼の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入居する際、施設長が利用者や家族へ、ホームの終末に対する対応指針や病院等について説明を行っている。		早期にまた必要な時、全員で方針や情報の共有を図ってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊厳し、全職員が言葉かけや対応に注意して、プライバシー保護の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を考慮しながら、その日、そのときの本人の気持ちを尊重した支援をしている。利用者と職員間は、和やかで朗らかな笑い声がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付け等も職員が利用者と共にやっている。利用者と職員は同じ食事を一緒に楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望に合わせて確認し、入浴できる支援をしている。毎日の入浴にも対応している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から得意分野で、洗濯物干し、調理の準備などの役割を楽しみごとや気晴らしとして支援をしている。トイレや洗面所の清掃を頼んで、常に感謝の言葉を伝えている。利用者の自立促進に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望に沿って、近場への散歩や買い物など日常的に外出できる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関先が病院駐車場で、車両の出入りが頻繁にある。利用者の安全、保身のために、玄関の鍵は家族の了解を得てかけている。外からは「あける」にプッシュしていつでも来訪できる。	○	鍵をかけない意識を高く持ち続け、鍵をかけないケアへ取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練を行っている。		地域の協力体制等を盛り込んだ新たなマニュアルを作成する予定である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、栄養バランスにも配慮している。食べるタイミングや食が進む工夫など、気遣いや言葉かけをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安らぎ、居心地よく過ごせるように工夫されている。台所の低いカウンターからもリビングにくつろぐ利用者へ、常時、声かけや気配りの支援を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用時に馴染みの家具等を持ってきていただき、その人らしく過ごせる居室の配慮をしている。		